

領域6合同 インフォーマルミーティング 議事録

2023/ 9 / 18 (月) 東北大学川内キャンパスB101会場17:30 ~ 18:30

記録者：橋爪洋一郎

参加者：枝川，白濱，長登，梶原，出村，橋爪，他

0. 全体説明・イントロダクション (梶原)

1. 委員について (梶原)

- ・次期領域代表，副代表の確認・承認があった
 - 次期 領域代表 (2024年4月～2025年3月)
白濱 圭也 (超低温，慶応大理工学部)
 - 次期 領域副代表 (2024年4月～2025年3月)
松田和博 (液体金属，熊本大学)
 - ・次期運営委員の確認があった
 - 出村 郷志 (超伝導・密度波，日大理工，2023年4月～2024年3月)
 - 橋爪 洋一郎 (準結晶，東京理科大，2023年4月～2024年3月)
 - 坂口 佳史 (液体金属，CROSS，2023年10月～2024年9月)
 - 小林 未知数 (超低温，高知工大，2023年10月～2024年9月)
 - ・次々期運営委員の推薦・承認があった
 - 次々期 領域運営委員(2024年 4 月 ～ 2025年 3 月)について
現運営委員から以下二名の推薦
 - 準結晶分野： 関岳人 (東京大学)
 - 超伝導・密度波分野： 矢野力三 (名古屋大学)
- 特に異論はなく承認された

2. 米沢富美子記念賞・論文賞の募集について (枝川)

- ・領域6からの米沢富美子記念賞の推薦候補 (2名) 募集が周知された
 - 提出書類：米沢賞提出書類一式に加え，領域6における発表リストを提出する
 - なお，他薦の推薦書は推薦者より直接提出
 - 提出先： 領域6代表 枝川 圭一
edagawa@iis. u-tokyo. ac. jp
東京大学生産技術研究所 Tel: 03-5452-6109
 - 締め切り：2023年10月24日 (火) (必着)

- ・論文賞 領域6 推薦候補 (2名) 募集が周知された
締切: 2023年10月20日 (金) (必着)
提出先: 領域6 代表 枝川 圭一
e-mail: edagawa@iis. u-tokyo. ac. jp
提出書類: 「第29回論文賞候補論文推薦用紙」および
領域6における発表リスト

2. 春季大会の学生優秀発表賞について (枝川)

2023年春季大会の学生優秀発表賞の受賞者が確認された.

- ・学生優秀発表賞受賞者は以下の通り
液体金属分野 伊藤 海
準結晶分野 野末 悟郎
超低温分野 小久保 治哉
超伝導・密度波分野 西村 俊亮, 舟見 優一

また, 若手奨励賞についての今後のスケジュール予定が口頭で示された

3. 領域委員会報告 (枝川)

● 第78回年次大会(2023年) 企画提案の採択として物性領域プログラム小委員会採択結果についての報告がなされた

- 招待講演: 6 件採択, 0 件不採択
- 企画講演: 3 件採択, 0 件不採択
- チュートリアル: 2 件採択, 0 件不採択
- 米沢賞受賞記念講演: 1 件採択, 0 件不採択
- シンポジウム(一般): 7 件採択(条件付含む), 0 件不採択
- シンポジウム(共催): 4 件採択, 0 件不採択

● 以下の3つの継続審議事項が議論され, 意見の一部が報告された

(1) オンライン時のポスターセッションの在り方

- 件数は減っているが, ポスターセッション自体をなくす理由はない。現状の方法でも問題ない。
- 多少の費用がかかってもポスターセッションに特化したツール導入を期待する。
- ブレイクアウトルームから抜けにくい。プレビューを見られるように(見やすく)してほしい。

(2) プログラム編集の効率化

- 重複や合同セッションの調整が難しい。提出前に漏れないかの確認ができるように WEB 上で編集できる高度なツールの導入をしてほしい。(参加費が 1 万円くらいまでであれば)
- 現状のやり方で困ってはいないが、領域間の調整をよりしやすくできるとなるとよい。
- 有料版 Slack 等の過去のやり取りが追えるツールならよいが、大幅な改善は見込めない。
- 参加費を上げてまで新たなソフトウェアを導入する必要はない。

(3) 英語講演を含むシンポジウムの全講演の英語化

- シンポジウムで講演するような方は、英語での講演に困ることはないと思われるので、大きな反対はない。外国の方の参加のハードルが下がるメリットがある。
- 一部の講演のためにすべて英語にするのはサービスしすぎではないか。学生離れに関しても懸念がある。一方で、シンポジウムではなくても英語の講演のみをまとめたセッションを設ける意味はあるのではないか。
- ルールで縛ると企画をしにくくなるので、主催者(提案者)の裁量でよいのではないか。

いずれの継続審議事項も、本インフォーマルミーティング中には新たな意見は出されなかった

4. 領域委員会報告：新領域「計算物理」(枝川)

理事会から提案のあった「計算物理」に関する新領域の設置について委員会で交わされた意見および提案が報告された

- インフォーマルミーティングだけでは領域内での理解を求めることは難しいので、本件で影響が大きいと想定される領域には発起人(もしくは理事会)からあらためて趣旨説明と質疑応答の機会を設けてほしい。(→こちらの希望を受け、6 月の理事会以降にオンライン説明会を開催することについて委員長が承諾した。)
- 新たな「領域」として新設をせずに、各領域のキーワードや合同セッションで設定して行うことも可能で、また領域内部ですでに同様のことを検討中であった。
- 物理学会の領域新設手順に照らせば、領域の区分は物理学の内容・主題によるべきであり、研究の手法・手段によるべきではない。

- 領域新設手順が、一般会員からの提案には適用されるが理事会からの提案の場合に適用されないという理屈は理解しがたい。まずは領域新設手順のルールを領域に共有してほしい。
- 試行期間には講演件数の算出方法等について最小限の影響になるよう特例措置が検討されているが、試行期間が終了したあとに影響が出るのではないか。

本インフォーマルミーティング中に出された意見は以下の通り

- 昔の分科をまとめることで領域ができてきた経緯のはずなので、新しい領域が唐突に提案されるのはいかがなものか
- 質問「『計算物理』が対象とする計算の意味は？ 物性と素核宇で同じなのか？」→ 応答「物性だけではなく、あらゆる分野の計算に関わる分野」
- 質問「具体的なテーマが想定されているのか？」→ 応答「量子コンピュータ、スーパーコンピュータなどが想定されているようである」
- 質問「『理事会からの提案』とされていることの意味は？」→ 応答「2018年に新領域設定手順が決まっていて、手法での分類はしないことになっているにもかかわらず、手法である「計算」についての領域が提案された。領域設定手順では一般会員から提案されることが前提となって記載されている。理事会からの提案が別かどうかは不明瞭。この手順を修正する案も出ている」
- 第一原理や機械学習を用いた研究をしている場合に、対象とする物理現象に即した領域で講演するか、計算手法にのみ注目してこの「計算物理」で講演するか、どのように考えるべきか悩ましい

5. 一般公演数の推移・概要提出率について（梶原）

- 講演数の変化について各分野の運営委員からコメントがなされた
- 液体金属分野は年々講演数が減り続け、近年は10件以下となっており、危機感を持っているとのこと。講演数自体の問題に加え、人材の枯渇から学会運営にも支障が出ており、現在分野内で対応を継続して協議していることが報告された
- 概要集の提出率について特に意見は出されなかった

6. 国際会議案内

- 野島勉先生（東北大学金属材料研究所）より第29回渦糸物理ワークショップ（仙台）のお知らせがなされた

期間：2023年12月18日～12月20日

詳細はHPを参照のこと <https://sites.google.com/view/vpwj2023>